

ふるさと再発見 第31回

Re:discovery Omihachiman

近江八幡偉人伝④

幕末の平安四名家の一人

塩川文麟

しおかわ ぶんりん

今回も『近江八幡の歴史』第9巻「地域文化財」から、近江八幡の偉人を見ていきましょう。今回は近江八幡ゆかりの画人・塩川文麟を紹介します。

塩川文麟は、文化5(1808)年、京都で生まれました。幼名は隼人、はじめ雲章、のち文麟と号します。幕末の京都を代表する絵師の一人で、同じ四条派の中島来章、横山清暉、岸連山とともに「幕末の平安四名家」の一人とされました。晩年は、山気夕佳処、雲松画房、木仏画房と号しますが、最後の「木仏」は、京都木屋町仏光寺に、アトリエを構えていたからです。暮靄山水の画家といわれ、暮れなずむ、あるいは靄が立ち込めたような情景を得意としていました。明治に入ると、京の画家の

指導者的存在となりませんが、明治10(1877)年、アトリエのある自宅で逝去、東山一心院(京都市)に葬られます。

文麟は、一面勤王の考えをもち、志士たちとの交友関係も有していました。それはあまり表に出さず、世情も慌ただしくなった安政4(1857)年から、喧騒の京を逃れ日野や八幡

に滞在します。その後、いったん京に戻ったようですが、禁門の変で京が焦土と化したからか、元治元(1864)年から翌年まで八幡に滞在し、創作活動を行っていたようです。

八幡商人は、高い教養と文化・芸術に強い関心をもっていました。京のサロンの中心たる門跡寺院や公家の御用もつとめ、出入りすることにより、画人・文人たちとの後援者ともなっています。その関係から、幕末の動乱期には、京から画人、文人たちが逃れ来る場所として、八幡や日野は重要な位置を担ったのです。そして、その逗留時に画人たちは多くの作品をお世話になった商人のもとに遺していくのです。

『近江八幡の歴史』第9巻「地域文化財」の第4章1節「近江八幡にゆかりの画人たち」には、八幡商人宅に伝来した数多くの文麟の作品が掲載されています。が、特筆されるのは、旧森五郎兵衛家隠居家の三畳間と廊下をつなぐ板戸絵「蘇鉄図・牛飼図」です。「牛飼図」の方に「乙未春半製 雲章」の墨書があり、文麟の生年から、天保6(1835)年に描かれたことがわかります。ちなみに、旧森五郎兵衛家隠居家は、現在の市立資料館の奥として公開しているところです。「蘇鉄図」は、現在も見ることができ、ぜひ探してみてください。



牛飼図



蘇鉄図

広報おうみはちまん

令和3年7月号

編集・発行/近江八幡市総合政策部秘書広報課

〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236

TEL: 0748(33)3111 FAX: 0748(32)2695

MAIL kouhou@city.omihachiman.lg.jp

WEB <https://www.city.omihachiman.lg.jp>

❗ 新型コロナウイルス関連の情報は、市ホームページをご覧ください

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本紙掲載の催しが急に中止や延期になる場合があります。開催の可否は事前に担当課または主催者へご確認ください。また、最新情報は、市のホームページ <https://www.city.omihachiman.lg.jp/> で随時発信しておりますので、ご確認をお願いします。

人口と世帯

令和3年6月1日現在
()は前月比

総数	82,257人	(+ 20)
男	40,438人	(+ 22)
女	41,819人	(- 2)
世帯	34,702世帯	(+ 24)

※外国人住民(43か国・地域/1,631人)を含みます。